



学校教育目標『つながる 続ける 創り出す』

令和5年5月22日

横浜市立三ツ境小学校

# 三ツ境小だより 6月号



「さらなる成長を願って・・・」

校長 飯田 雅人

青葉が日に日に鮮やかさを増し、吹く風もさわやかに感じられる季節となりました。校内を歩いていると、「校長先生、こんにちは。」と自分からあいさつができる三ツ境小の子どもたちです。各教室の授業の様子をのぞいてみると、「聞く」「書く」「話す」といった活動を基盤にしながら、どのクラスの子どもたちも丁寧に学習を進めています。そのような子どもたちの姿を見ていると、令和5年度もよいスタートを切ることができたのではないかと思います。

年度初めの教職員の打ち合わせでは、三ツ境小学校の子どもたちのさらなる成長を願って、次の2つのことを意識して子どもたちの日頃の指導にあたってくださいという話をしました。1つ目は、自分の名前を呼ばれたら、「はい」という気持ちのよい返事ができることです。思春期に入った高学年は、なかなか自分を前面に出していくことが難しくなっていく子どもが多いのが現実です。しかしながら、自分の名前を呼ばれたら、自信をもって「はい」と返事ができる子どもになってほしいと願っています。2つ目は、何かをみんなの前で話す時には、できる限り原稿を読まずに、相手の目を見て話すことのできる子どもに育ててほしいということです。話の内容は、つたなくてもかまいません。でも、何かを相手に伝える時に、原稿を読んでいては十分に伝わるとは思わないからです。保護者や地域の皆様には、今後の子どもたちのさらなる成長を見守っていただければと思います。

また本校では、今後ペア学年の交流活動により一層力を入れていきたいと思っています。ペア学年の交流活動とは、1・6年、2・4年、3・5年がそれぞれペアとなり、異学年交流をする活動のことをいいます。特に1・6年のペア学年では、6年生が1年生に接している時の姿を見ていると、とても微笑ましく思います。ただし、6年生は単なる1年生のお世話係ではありません。実は、この活動は、1年生のためというよりは6年生のために大いに効果を発揮する活動です。6年生が1年生と接することで、同じ学年の友達と接している時には決して感じる事ができない自尊感情が高まり、より成長していきます。また1年生にとっても、6年生があこがれの存在になり、自分たちが6年生になった時には、あんな風になりたいという感情が生まれ、長いサイクルの間に、学校全体がよりよい方向に向かっていくことができるのです。

最後になりますが、5月27日(土)には、本校で「三ツ境スポーツフェスティバル」を開催します。練習時には、子どもたちが練習する際に出る音等でご迷惑をおかけしていると思いますが、スポーツフェスティバル当日には、子どもたちが精一杯がんばる姿を皆様にお見せできるようにしたいと思います。ご理解とご協力をお願いするとともに、当日は、子どもたちへの温かいご声援をよろしく願いいたします。